

## 報道関係者各位 ちひろ美術館・東京 2022年夏の展覧会のご案内

2022年6月25日(土) ~ 10月2日(日)

ちひろ美術館コレクション 江戸からいまへ 日本の絵本展

ちひろ・花に映るもの

みなさまにおかれましてはますますご健勝のことと存じます。平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。さて、ちひろ美術館・東京の2022年夏の展覧会詳細について、別紙の通りご案内申し上げます。資料をご高覧のうえ、ぜひご掲載・ご取材賜りますようお願い申し上げます。

## プレス用作品画像データ借用・誓約書

以下の内容をお読みいただき、必要事項をご記入のうえ、FAXにてお送りください。

本展覧会をご紹介いただける場合に、リリース内に掲載の作品画像データをお貸し出しいたします。

貸出画像一覧をご覧いただき、ご希望の画像にチェックをお入れください。企画書等とあわせてお送りいただければ幸いです。

## 掲載にあたっての注意事項

- 必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。
- トリミングや、文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。
- データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。
- 掲載紙/誌をご送付ください。

## 読者・視聴者へのプレゼント用招待券のご提供

本展覧会として、作品図版掲載を条件に、1媒体につき、招待券を5組10名様分をご用意しています。  
お届けは掲載紙/誌をご送付していただいてからとなりますので、あらかじめご了承ください。

ご所属

お名前

E-mail

ご住所 〒 -

TEL. FAX

掲載紙/誌名

月 日発行 号

画像受取希望日

月 日 まで

プレゼント用招待券

希望する ・ 希望しない

備考

## ■誓約

- 借用デジタルデータを上記目的以外に使用しないことを誓約します。
- 借用デジタルデータを無断で編集、改変しないことを誓約します。
- 借用デジタルデータを無断で転用しないことを誓約します。
- 借用デジタルデータを作業上、やむなくPC等にコピーする場合は、作業後、必ず、同データを削除することを誓約します。

上記事項に同意し、万が一、違約した場合は、然るべき損害賠償を負担します。

## 貸出画像一覧

No.	作 品	check
1-1	絵巻「俵藤太」 江戸時代前期	
1-2	西村繁男 『がたごとがたごと』(童心社)より 1999年	
1-3	歌川国貞 合巻『児雷也豪傑譚』二編上・下 1839年	
1-4	清水良雄 おふね「赤い鳥」創刊号 1918年	
1-5	初山滋 『コドモエホンブンコ 一寸法師』より 1928年	
1-6	茂田井武 『ゼロひきのゴーシュ』(福音館書店)より 1956年	
1-7	武田美穂 『おかあさん、げんきですか。』(ポプラ社)より 2006年	
2-1	いわさきちひろ チュールリップのなかのあかちゃん 1971年	
2-2	いわさきちひろ 花のなかから生まれたおやゆび姫 『おやゆびひめ』(講談社)より 1966年	
2-3	いわさきちひろ シクラメンの花のなかの子どもたち 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年	
2-4	いわさきちひろ 青い花と小鳥と子ども 1972年	
2-5	いわさきちひろ コスモスと家並みと少年 1965年	
2-6	いわさきちひろ ゆびきりをする子ども 1966年	
2-7	いわさきちひろ ききょうと子どもたち 1967年	
2-8	いわさきちひろ ひなげし『花の童話集』(童心社)より 1969年	

借用者署名

印

画像削除予定日

年

月

日



# ちひろ美術館コレクション 江戸からいまへ 日本の絵本展

2022年6月25日(土)～10月2日(日)

会場：ちひろ美術館・東京 展示室1・2

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、  
(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、  
(公社)日本図書館協会



1-1 絵巻「俵藤太」江戸時代前期



1-2 西村繁男「がたごとがたごと」(童心社)より 1999年

## 江戸から絵本は どう変わった!?

日本で広く絵本(絵入り本)が読まれるようになったのは、印刷技術が進歩して版本が流通するようになった江戸時代のこと。本展では江戸時代を起点に、現代までの絵本の歩みと広がり、ちひろ美術館コレクションをもとに紹介します。

伝統的な絵巻から、江戸時代に盛んに出版された草双紙、明治時代以後広がった子どものための絵雑誌、戦時中の絵本、そして今も読み継がれる絵本へ――。印刷や本の形、絵画や文学、子どもに対する考え方など、さまざまな要素が絡み合いながら絵本は変化してきました。江戸からのおよそ400年の間に、日本の絵本がどのように発展したか、またどのように伝統は引き継がれているのかを見ていきます。

### 展覧会基本情報

展覧会名 ちひろ美術館コレクション 江戸からいまへ 日本の絵本展  
ちひろ・花に映るもの

会期 2022年6月25日(土)～10月2日(日)  
※会期は予告なく変更になる場合があります。  
○開館時間＝10:00～16:00(最終入館は15:30まで)  
○休館日＝月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)

会場 ちひろ美術館・東京  
〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 TEL.03-3995-0612

交通 ○電車の場合＝西武新宿線上井草駅下車徒歩7分  
○バスの場合＝JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)「上井草駅入口」下車徒歩5分／西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)「上井草駅入口」下車徒歩5分

料金 大人1000円／高校生以下無料  
団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は800円  
障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料  
年間パスポート3000円

## 展覧会の見どころ

## 江戸を起点にたどる絵本の歩み

江戸時代には、木版の印刷技術の高まりとともに、幅広いジャンルの絵入り本が出版され、大人から子どもまで、広く読書に親しむようになりました。本展では、江戸時代の絵巻物や、当時盛んに出版されるようになった草双紙や錦絵なども展示し、江戸を起点にその後の絵本の歩みをみていきます。

## 「子ども」に注目！

明治時代になって、ヨーロッパの文化や思想が流入するようになると、日本でも「子ども」の存在に光があたるようになり、子どもを対象にした絵本や雑誌が出版されるようになりました。大正期には、子どものための絵を描く童画家たちも登場します。江戸の錦絵、大正から昭和にかけての童画、そしていまの絵本に登場する「子ども」の表現に注目します。

## 江戸からいまの「昔話」の絵本

日本各地で語り継がれてきた昔話が、江戸時代には子どものための絵入りの赤本として出版されました。その後も今にいたるまで、時代の変化を映しながら、昔話は繰り返し絵本に描かれています。江戸からの昔話の絵本とともに、初山滋の『一寸法師』、赤羽末吉の『ももたろう』、井上洋介の『やまのねこやしき』などの原画も展示します。



1-3  
歌川国貞  
合巻『児雷也豪傑譚』  
二編上・下  
1839年



1-4  
清水良雄 おふね  
『赤い鳥』創刊号  
1918年



1-5 初山滋 『コドモエホンブンコ 一寸法師』より  
1928年



1-6 茂田井武『セロひきのゴーシュ』（福音館書店）より 1956年



1-7 武田美穂『おかあさん、げんきですか。』（ポプラ社）より 2006年

## 出展作品数

書籍や原画あわせて 約150点

## 主な出展作品

絵巻「俵藤太」江戸時代前期／赤本「さるかに合戦」江戸時代中期（復刻版）／初山滋 『コドモエホンブンコ 一寸法師』（誠文堂）より 1928年／茂田井武『セロひきのゴーシュ』（福音館書店）より 1956年／西村繁男『がたごとがたごと』（童心社）より 1999年

## 図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※掲載紙／誌をご送付ください。



# ちひろ・花に映るもの

2022年6月25日(土)～10月2日(日)

会場：ちひろ美術館・東京 展示室 3・4

主催：ちひろ美術館



2-1 チューリップのなかのあかちゃん 1971年

2-2  
花のなかから生まれたおやゆび姫  
「おやゆびひめ」(講談社)より 1966年

平和で、豊かで、美しく、  
可愛いものが本当に好き——

いわさきちひろ 1972年

「花と子どもの画家」といわれたいわさきちひろ。

チューリップ、バラ、ひなげし、ききょう、シクラメン……、ちひろは実にたくさんの花々を作品に描いています。

花が好きだったちひろは、庭で草花を育て、アトリエに鉢植えを飾るなど、22年間を過ごした東京・練馬の自宅(現・ちひろ美術館・東京 所在地)で四季折々の花に囲まれた暮らしを楽しんでいました。花と語らい、花を慈しむ時間は、ちひろの創作の源泉となります。美しい花の造形を丹念に描いた時代を経て、やがて、ことばにできない繊細な心のひだを花に託した独自の表現へと移っていきます。

本展では、ちひろが描いた花の表現の変遷を追いながら、花々のなかに映るちひろの感性や美意識を探ります。



2-3 シクラメンの花のなかの子どもたち  
「戦火のなかの子どもたち」(岩崎書店)より 1973年



## 展覧会の見どころ

## 花の描写の変遷

花や葉の造形を丹念に描き出した1960年代前半から、花を大きく描いた自由な構成が登場する1960年代後半までの作品を展示し、ちひろの花の描写の10年の軌跡をたどります。

## 花と絵本

ちひろが深く共感した宮沢賢治の童話を描いた『花の童話集』やアンデルセンの『おやゆび姫』など、花が重要なモチーフとして登場する絵本を紹介し、また、ベトナム戦争が激化するなか、アトリエに飾るシクラメンの花びらに、戦時下の子どもたちの姿を重ねて描いた『戦火のなかの子どもたち』も展示します。

## ちひろが描いた「花」と「子ども」

「花」と「子ども」は、ちひろが生涯描き続けたテーマでした。花のみずみずしい生命感を感じる作品や、画面のなかで子どもと花の心が呼応する作品など、花と子どもを描いた作品を展示し、ちひろが願った「世界中のこどもみんなに 平和としあわせを」ということばの意味を見つめ直します。

## 出展作品数

原画とピエゾグラフをあわせて 約50点

\*展示室4はピエゾグラフで作品を紹介します

## 主な出展作品

『世界名作絵本全集14 おやゆび姫』（ひかりのくに昭和出版/改訂版 講談社）より 1966年／『花の童話集』（童心社）より 1969年／『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）より 1973年／チューリップのなかのあかちゃん 1971年／ききょうと子どもたち 1967年／ひなげしと少女 1967年



## いわさきちひろ(1918～1974)

福井県武生市(現・越前市)に生まれ、東京に育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。40冊あまりの絵本のほか、教科書やカレンダー、広告など主に印刷物での仕事を中心に活躍。子どもを生涯のテーマとして描き、9550点を超える作品を残す。



2-4 青い花と小鳥と子ども 1972年



2-5 コスモスと家並みと少年 1965年



2-6 ゆびきりをする子ども 1966年



2-7 ききょうと子どもたち 1967年



2-8 ひなげし「花の童話集」(童心社)より 1969年

## 図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※掲載紙/誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp



お問い合わせ

ちひろ美術館・東京 広報担当 松方・原島・北村

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

TEL.03-3995-0772 (業務用) FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612 (お客様問い合わせ先)

E-mail : publicity@chihiro.or.jp

## ちひろ美術館コレクション 江戸からいまへ 日本の絵本展 関連イベント

## 西村繁男講演会「日本の歴史を絵本に描く」(オンライン)

7月24日(日) 14:00～15:30

会場：オンラインで開催／講師：西村繁男(絵本画家)／参加費：700円／定員：70名(先着順)

申し込み：6月24日(日) 10:00よりPeatixサイトにて受付開始予定(詳細は当館公式サイトをご覧ください)

江戸をはじめ、古代から現代にいたるまでのさまざまな人々を、絵本に描いている西村繁男さん。写真もなかった時代の人の姿や風景を、どのように絵にしているのでしょうか。ご自身の絵本づくりについてお聞きします。



## ちひろ・花に映るもの 関連イベント

## 松本猛 ギャラリートーク

7月31日(日) 14:00～14:30

講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問)

参加費：無料(入館料別)／定員：15名／申し込み：当日受付

いわさきちひろのひとり息子・松本猛によるギャラリートーク。

展示作品を見ながら、母・ちひろとの思い出や展示の見どころなどをお話します。



## ギャラリートーク

第1・第3土曜日14:00～14:30

参加費：無料(入館料別)定員：15名／申し込み：当日受付

当館学芸員が開催中の展覧会の見どころなどをお話します。

## そのほかのイベント

## 絵本のじかん

第2・第4土曜日11:00～

会場：ちひろ美術館・東京 図書室

参加費：無料(入館料別)

定員：15名／申し込み：当日受付

協力：NCBN

(ねりま子どもと本ネットワーク)

季節や展示にあわせ、毎回テーマにそった

絵本の読み聞かせを行います。

あかちゃんから大人まで、どなたでもご参加いただけます。

見つめる子どもたち  
1969年

## わらべうたあそび(オンライン開催)

9月3日(土)

講師：服部雅子

(西東京市もぐらの会代表・はとさん文庫主宰)

参加費：無料

対象：10:30～11:00 0～1歳6ヵ月児と保護者

11:30～12:00 1歳7ヵ月～2歳11ヵ月児と保護者

参加費：無料 定員：各回5組

申し込み：要事前予約(ちひろ美術館公式サイト、

TEL.03-3995-0612にて8月3日より受付開始)

リズムにあわせて体を動かしたり、

声を出して歌ったり。

物語への入り口となる

「わらべうた」を

親子で楽しみましょう。

アヒルとクマとあかちゃん  
1971年

## 次回展示予告

10月8日(土)～2023年1月15日(日)

## くらし、えがく。ちひろのアトリエ

いわさきちひろの自宅があった場所にある「ちひろ美術館・東京」。ここにはちょうど50年前の、1972年当時のアトリエのようすが再現され、ちひろのくらしを今に伝えています。本展では、この22年を過ごした練馬の自宅をはじめ、ちひろが画家として出発した神田の下宿や、1966年に信州北端の地に建てた黒姫山荘を紹介し、そこでちひろがどのように暮らし、絵を描いたのかを、作品や彼女自身のことば、資料などを通して見ていきます。

※リリースに掲載している展覧会・イベントは、予告なく変更になる可能性があります。最新情報は公式サイトをご覧ください。お電話・メールにてお問い合わせください。みなさまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。